



児童、仮想空間で家造り

本年度、文部科学省の「DX（デジタル・トランスフォーメーション）ハイスクール」の指定を受けた県立潮来高（潮来市須賀、高野光章校長）は7月31日、近隣地域の小学生を対象にした「まちづくりアイデア教室」を開催した。参加した児童12人は、インターネット上の仮想空間でブロック

DX教室、潮来高生が助言

を組み合わせて建物や町をつくるツール「教育版マイクラフト」を使って個性的な家を次々と完成させた。同校地域ビジネス科の3年生12人とNPO法人「NASEF JAPAN（ナセフジャパン）」の4人のアドバイスを受けながら、子どもたちは事前に用意された造りかけの家に床や壁、屋根などを張っていった。市立延方小6年の浅野翔太さんは「これまでマイクラで戦ったり、冒険をし

たりすることはあっても家を造ることはなかなかなかった。高校生と楽しく良いものが出来上がった」と自信作を前に笑顔を見せた。文科省は、成長分野であるデジタルの担い手増加を目的に、高校段階で高度なプログラミングや探究学習に取り組む拠点校「DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）」の整備に力を入れている。全国の高校約1200校を支援対象にしており、2024年度は約1000校、本年度は潮来高を含む約200校が新規採択された。

（小室雅二）

（R7. 8. 6 茨城新聞15面）